RICE CLOUD JAPAN

ERP導入・Excel管理からの見直しをご検討の方へ

なぜ中堅・中小企業のERPは高くつくのか

必要な業務から始める、Odoo段階導入の進め方



販売／購買／在庫／製造／会計

odoo Ready Partner

はじめに

本書は、中堅・中小企業がERPを導入するときに費用と期間が膨らむ典型的なパターンと、必要な業務から段階的に始める進め方をまとめた資料です。

販売・購買・在庫・会計をひとつのシステムにまとめたいと考えても、「大がかりな導入になる」「費用が見通せない」という理由で、Excelや部門ごとのツールのまま運用を続けている企業は少なくありません。本書では、ERPを「一度に入れない」「標準機能で使う」「使いながら広げる」の3つの観点から整理しました。

一度に入れない



標準機能で使う



使いながら広げる



こんな方に読んでいただきたい資料です

- ✓ 20～100名程度で、ERPの利用を検討しているメーカー・商社の経営者・管理部門の方
- ✓ Excelや複数のシステムに、業務データが分かれている方
- ✓ 標準機能を中心に導入し、追加開発を抑えたい方

本書の構成

章	内容
第1章	中堅・中小企業の業務システムを取り巻く状況
第2章	ERP導入が高くつく 4つの典型パターン
第3章	セルフチェック：自社の進め方は大丈夫か
第4章	Odooという選択肢
第5章	必要な業務から始める、段階導入の進め方
第6章	導入パートナーを選ぶときに確認したいこと

1 中堅・中小企業の業務システムを取り巻く状況

事業が大きくなるにつれて、業務のデータは部門ごとのExcelやツールに増えていきます。

1-1 業務データが、Excelと複数のシステムに分かれている



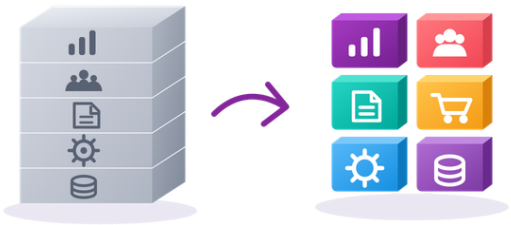
販売はExcel、在庫は在庫管理ソフト、会計は会計ソフト、というように、業務ごとに別のツールを使っている企業は多くあります。

ツールが分かれていると、同じ受注や入出庫の情報を、部門ごとに入力し直すことになります。転記や二重入力が増え、月末に数字を突き合わせる作業にも時間がかかります。

1-2 「ERPは大がかりな導入になる」という思い込み

ERPと聞くと、全社の業務をまとめて新しいシステムに切り替える導入を思い浮かべる方が多いかもしれません。

全社機能を一括で導入する進め方では、各部門の要望に応えるための個別開発が増えやすく、導入後の変更にも時間がかかります。その結果、費用と期間が当初の見込みを超えやすくなります。



1-3 必要な業務から始めるERPという考え方

最近は、必要なアプリを選んで使える統合型のERPがあります。最初からすべての業務を入れ替えるのではなく、優先度の高い業務から使い始め、事業の成長に合わせて利用範囲を広げる進め方です。本書の第2章以降は、この考え方を前提に整理しています。

全社機能を一括で導入する場合	必要な業務から始める場合
全社機能をまとめて導入する	必要な業務から始める
個別開発が増えやすい	標準機能を中心に検討する
導入後の変更に時間がかかる	事業に合わせてアプリを追加する

2 ERP導入が高くつく 4つの典型パターン

本章では、ERPの導入で費用と期間が膨らむ原因のうち、進め方に関わる代表的な4つのパターンを取り上げます。それぞれ「よくある状況」「何が起きるか」「早く気づくためのサイン」に分けて紹介します。

パターン1　最初から、全社の業務をまとめて入れ替えようとしている



よくある状況

販売・購買・在庫・会計・製造のすべてを、同じ時期に新しいシステムへ切り替える計画になっています。

何が起きるか

決めることが一度に増え、要件定義が長引きます。稼働日までの期間が延び、その分の費用もかかります。

早く気づくためのサイン

・最初に導入する業務の優先順位が決まっていない
・「どうせ入れるなら全部」という意見が通っている

パターン2　今の業務・帳票をそのまま再現しようとして、追加開発が増える



よくある状況

現場から「今と同じ画面がほしい」「今と同じ帳票を出したい」という要望が積み上がっています。

何が起きるか

標準機能で対応できない部分を追加開発で補うため、費用と期間が膨らみます。追加開発が多いほど、稼働後の保守の負担も大きくなります。

早く気づくためのサイン

・要件のうち、追加開発で対応する項目が増え続けている
・「今と同じように」という表現の要望が多い

2 ERP導入が高くつく 4つの典型パターン

パターン3　使う機能を増やすたびに、費用が積み上がる



よくある状況

最初は販売と在庫だけで始め、あとから会計や製造を足すたびに、追加のライセンス費用がかかる契約になっています。

何が起きるか

事業が成長して使う機能が増えるほど、費用が読めなくなります。追加をためらい、Excelでの運用が残ります。

早く気づくためのサイン

・2～3年後に使う機能を足したときの費用を、見積もっていない
・機能ごとのライセンスの考え方を確認していない

パターン4　システムを入れても、部門ごとのExcelと転記が残る



よくある状況

部門ごとに別々のシステムを入れたため、受注・発注・入出庫・会計のデータがつながっていません。

何が起きるか

同じ情報を部門ごとに入力し直す作業が残ります。数字の突き合わせに時間がかかり、導入で期待した効果が出ません。

早く気づくためのサイン

・受注から会計までのデータの流れを、図にしたことがない
・月末に、部門ごとの数字を手で突き合わせている



4つのパターンは、進め方を変えれば避けられます

次の第3章のセルフチェックで、自社に当てはまるパターンを確かめてください。

3 セルフチェック：自社の進め方は大丈夫か

第2章の4つのパターンに対応した8つの質問で、ERP導入の進め方を確認できます。当てはまるものにチェックを入れてください。

3-1　8つの質問

導入範囲（パターン1）

- ☐ 最初に導入する業務の優先順位が決まっていない
- ☐ 全社の業務を同じ時期に切り替える計画になっている

追加開発（パターン2）

- ☐ 追加開発で対応する要件が増え続けている
- ☐ 「今と同じように」という要望が多い

費用の見通し（パターン3）

- ☐ 機能を足したときの費用を見積もっていない
- ☐ ライセンスの考え方を確認していない

データのつながり（パターン4）

- ☐ 受注から会計までのデータの流れを図にしていない
- ☐ 月末に部門ごとの数字を手で突き合わせている

3-2　チェック結果の見方

0〜1個

大きな問題は見られません。このまま進め方を定期的に点検しましょう。

2〜4個

注意が必要です。該当するパターンの対策を早めに検討しましょう。

5個以上

進め方の見直しをおすすめします。第5章の段階導入をご覧ください。

※判定の区切りは目安です。チェックが少なくても、1つの問題が大きく影響する場合があります。

3-3　「見直しをおすすめ」に該当した方へ

チェックが多かった場合は、まず「最初にどの業務から始めるか」を決めることが第一歩になります。次の第4章で、必要な業務から始められるERP「Odoo」を、第5章で段階導入の進め方を紹介します。自社だけでの判断が難しい場合は、弊社ホームページからお問い合わせください。

4 Odooという選択肢

Odooは、必要なアプリを選んで使える統合型ERPです。販売・購買・在庫・会計を、ひとつのシステムで管理できます。

4-1　部門ごとの情報を、ひとつの流れで管理する

同じデータを各業務で使えるため、転記や二重入力を減らしやすくなります。

販売
受注情報を共有

→

購買
発注へ連携

→

在庫
入出庫を反映

→

製造
生産情報を統合

→

会計
会計処理へ接続

4-2　事業の変化に合わせて、使う範囲を広げられる

幅広い業務アプリ

70以上の公式アプリと多数のモジュールがあり、販売・購買・在庫に加え、CRM、製造、人事、プロジェクト管理などに対応します。

標準機能から拡張

必要に応じて追加開発や外部システム連携を行い、自社の業務に合わせて機能を広げられます。

将来の費用を見通しやすい

Standard・Customプランでは全標準アプリを利用できます。CRMや製造へ広げても、標準アプリ追加のライセンス費用はかかりません。

※追加開発、外部連携、利用ユーザー数、ホスティングなどにかかる費用は別途必要です。契約条件は最新の公式情報に基づきご案内します。

4-3　業務ごとの画面を、同じ操作感で使える

使うアプリが増えても、基本的な画面の考え方は共通です。担当者ごとに必要な情報へアクセスできるため、新しい業務を足すときの教育の負担を抑えられます。



5 必要な業務から始める、段階導入の進め方

段階導入では、導入範囲を決めてから進めます。必要な業務から始め、利用状況に合わせて対象を広げます。

01 相談

解決したい課題や、検討している業務を確認します。

02 業務整理

現在の業務の進め方と、利用中のシステムを確認します。

03 導入範囲の決定

優先順位をつけ、最初に導入する機能を決めます。

04 設定・移行

Odooの設定、必要な開発、データ移行を進めます。

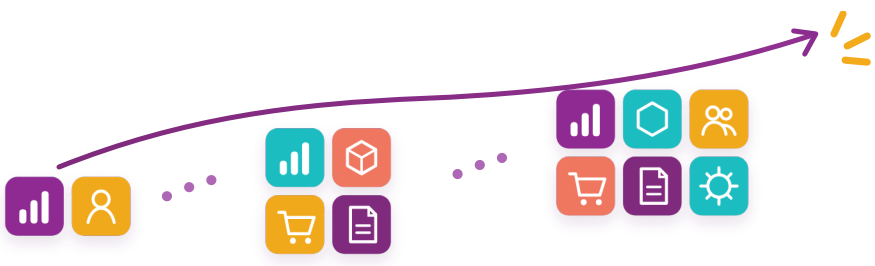
05 利用開始・運用支援

操作説明を行い、利用開始後の改善と、利用範囲の追加を支援します。

最初に導入する業務の決め方

- ✓ 転記や二重入力に、いちばん時間がかかっている業務はどこか
- ✓ その業務のデータは、ほかのどの業務につながっているか
- ✓ 標準機能の範囲で、今の運用を置き換えられるか

例えば、受注から発注・入出庫までをExcelで管理している場合は、販売・購買・在庫から始め、運用が落ち着いたあとに会計や製造へ広げる進め方があります。



6 導入パートナーを選ぶときに確認したいこと

ERPの導入は、導入パートナーと一緒に進めるプロジェクトです。提案や面談の場で、次の4つの点を確認することをおすすめします。

	確認したいこと	確認のしかた
1	業務の整理から始めてくれるか	製品の説明より先に、自社の業務と課題について質問してくるかを見る
2	標準機能と追加開発の線引きを示してくれるか	要件ごとに、標準機能で対応できるかどうかの見立てを聞く
3	段階的に広げる計画を一緒に作ってくれるか	最初の導入範囲と、その次に広げる業務の順番が提案に含まれているかを見る
4	稼働後まで支援してくれるか	操作説明、運用支援、利用範囲の追加の進め方が提案に含まれているかを確認する

RICE CLOUDのOdoo導入支援

現在の業務をそのままシステム化するのではなく、業務プロセスから整理します。ERP導入で培った業務理解と導入ノウハウをもとに、企業ごとに業務プロセスとシステムを設計します。



01　業務プロセスから整理

現状の業務と課題を整理し、導入する機能と優先順位を明確にします。



02　標準機能を優先して設計

Odooの標準機能を活かし、必要以上の追加開発を抑えた設計を行います。



03　変化に合わせて拡張

事業や業務の変化を見据え、必要な機能を段階的に追加できる形に整えます。

odoo Ready Partner

RICE CLOUDは、NetSuite・Dynamics 365・Odooを扱っています。自社の業務や規模に合わせて、製品を比べたうえでご提案できます。

よくあるご質問

Q 必要な機能だけで導入を始められますか。

はい。優先度の高い業務から開始し、運用状況や事業の変化に合わせて利用範囲を広げられます。

Q アプリを追加するとライセンス費用も増えますか。

Standard・Customプランでは標準アプリが含まれるため、アプリ単位のライセンス費用は追加されません。利用ユーザー数や追加開発などの費用は別途確認が必要です。

Q 追加開発や外部システム連携はできますか。

対応できます。標準機能での実現を優先し、必要な場合に追加開発や外部連携をご提案します。対応方法は契約プランによって異なります。

Q 現在使っているシステムを残せますか。

業務やデータの扱いを確認し、継続利用、データ移行、Odooとの連携を含めて適した方法を整理します。

お問い合わせ・会社概要

まずは、導入したい業務からご相談ください。現在の業務と利用中のシステムを伺い、Odooで対応する範囲と進め方を一緒に整理します。

https://www.rice-cloud.info/odoo/

項目	内容
会社名	株式会社RICE CLOUD（ライスクラウド）
所在地	埼玉県さいたま市南区南浦和2丁目40-1　第2愛興ビル 3階
事業内容	ERP導入支援、ERPプロジェクトのリカバリー支援
対応製品	Odoo、NetSuite、Dynamics 365